

# 敬老会の涙と笑顔



「せっかくだから夫婦でツーショット写真を撮る」と職員らが促すと、今野あさ子さんと柳馬さんは照れながら並んで座った（9月16日、石巻市の仁風園で）

## いま 命をめぐって

仁風園③

和やかな笑い声がこたました。9月16日。特別養護老人ホーム「仁風園」の敬老会は2年連続で来賓や家族を招かず、職員だけでこじんまりと催された。

「写真撮るよ。こっちはいい顔してよ」  
「すごい、みんな今日は線くささい」

記念撮影でちゃめっ気たっぷりに舌を出したり、寝ていた人がうつすら目をあけたりして、歓声が上がると。記念品のタオルを中村泰仁施設長（54）から手渡され、感極まってみせ泣く女性。あちこちで泣く人が出て、「あらら、

入所者に声をかける三浦さん



涙が伝染しちゃった」と明るく笑いがまた場を包む。パーティー用の赤い蝶ネクタイ姿で司会を務めていたのが、介護主任の三浦まゆみさん（49）だった。

仁風園の居住棟は東西に二つ並んでいる。東側にあるのが1人部屋の「ユニット個室」、西側は2〜4人部屋が中心の「多床室」。三浦さんは多床室の棟のリーダーとして



記念品のタオルを渡され、涙を流す女性

入所者家族から届いたメッセージ。額に入れて、入りに渡された



て日々のケアにあたる。今年の敬老会の記念に、多床室の入所者は自分の写真を家族に贈るようになった。フォトフレームに入れ、「笑うが勝ち」「一生青春」など、それぞれ自分らしい一言を書き添える。三浦さんが思い入れを込めて発案した企画だ。今年5月、東松島市の老人ホームで過ごしていた三浦さんの祖母・きみをさんが亡くなった。数えて103歳。以前はよく面会し足を運んだが、コロナの流行後はほとんど会えなかった。

葬儀には、施設で撮影された誕生日や敬老会の写真も飾られた。晩年は認知症が進んだが、どれも穏やかな表情をしていた。うちのおぼあちゃんも、こんなふうに施設の人に見守られて安心して暮らしたんだ。利用者家族の視線で一枚一枚に眺め入った。別々に歩んできた長い人生の晩年に、過りずも同じ空間でともに過ごすこと不思議。たわいのない会話で笑い合う幸福感。きれいなことはかりではないのが介護の仕事だが、コロナと祖母の死をきっかけに、三浦さんはその奥深さにあらためて思いをはせている。